

文部科学大臣表彰を2部門で受賞

平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が文部科学省から公表され、生態系計測研究領域の井上吉雄上席研究員が科学技術賞（研究部門）を、農業環境インベントリーセンターの吉松慎一上席研究員、中谷至伸主任研究員、吉武啓研究員、生物多様性研究領域の安田耕司領域長の4名が、科学技術賞（理解増進部門）を受賞しました。



5月13日、研究所内で伝達式が行われた
(左から井上吉雄、吉松慎一、中谷至伸、吉武啓、安田耕司)

文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）： 井上吉雄上席研究員

「植物生理生態情報及び生態系動態の遠隔計測手法に関する研究」

農業管理の状態や作物生産の予測、炭素循環量などを地域あるいは国、地球規模で把握することが、食糧・環境施策の立案・実施のために必要とされています。そのために、植物や生態系の動態を広域的かつ定量的に計測・評価する方法の開拓が大きな課題となっていました。

井上上席研究員は、可視光からマイクロ波にわたる広範囲の電磁波を計測することにより、植物の環境ストレス、窒素含有量、光合成効率、CO₂吸収・放出量などを推定するための基礎知見を解明しました。また、航空機センサや地球観測衛星によるリモートセンシングデータを用いて、作物を診断・管理するための情報計測手法を確立しました。

これらの成果により、植物の生理生態情報や生態系動態を調査するリモートセンシング手法の開発に重要なブレークスルーがもたらされ、農業情報の収集が大幅に省力化、高精度化されました。さらに、地球観測衛星などによる地球生態系の広域的・恒常的な監視システムの構築を可能にしました。

今後、産地規模での作物管理の検討や温暖化対策のための生態系管理法の決定など、食糧生産と環境保全における施策に対しても、大きく寄与することが期待されます。

文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）： 吉松慎一上席研究員、中谷至伸主任研究員、吉武啓研究員、安田耕司研究領域長

「農業と関連する昆虫標本を活用した農と自然への理解増進」

現在、世界規模で生物多様性の解明と保全に向けた取り組みが進められており、農耕地や里山における生物多様性研究への貢献が求められています。農業環境技術研究所の昆虫標本館は、国内では最大規模の農業に関連する昆虫標本（約130万点）を所蔵していますが、国民への情報の提供は不十分で、標本収集・管理の意義を理解してもらうまでには至っていませんでした。

この活動では、昆虫標本館が所蔵する昆虫標本を利用して、1948年以来、約9,200件の鑑定依頼に対応するとともに、見学者への解説を行ってきました。次世代を担う子どもたちには昆虫や自然環境・農業への理解を深めてもらうためにさまざまな行事を実施し、最近では年間1,000人を超える小・中学生に昆虫採集や標本作製を指導しました。また、日本応用動物昆虫学会に協力して、日本産害虫の全種類のリスト「農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版」を、2006年に出版しました。

これらの活動は、若い世代の理科離れを防止したり生物への関心を高めたりすることに貢献してきました。また、鑑定依頼で判明した昆虫を新害虫として報告してきたことは、現地での防除対策に役立っています。

(広報情報室長 廉沢 敏弘)